

## <江戸まち散歩>

# 古地図で辿る浅草鳥越～柳橋から両国へ

日時:2019年1月23日(水) 天候:晴れ 15000歩 約10km

集合:都営浅草線浅草駅A2a出口(駒形橋側) 10時

コース:浅草駅→東本願寺→下谷神社→佐竹商店街→三味線堀跡→鳥越神社→浅草見附跡→柳橋→隅田川テラス(なまこ壁)→首尾の松・浅草御蔵跡の碑→横網町公園(復興記念館)→旧安田庭園→JR両国駅(解散)

参加者:小島(L) 勅使河原(SL) 桑名・山田・赤須(班長)

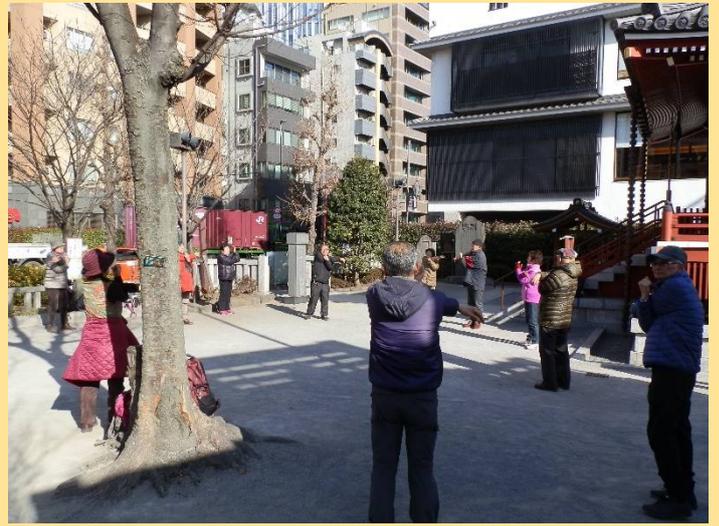
吉越 平嶋 平石 仲 高橋文 青松秀 菊池 熊島 佐藤繁 山内 伊藤美 山川 市村 平林勝 志村 桑原  
奥村 中林 加納富 脇坂 岩元 吉岡 計27名

町人文化が花開いた江戸時代には、文字や絵にある意味を隠し当てさせる、「判じ物」と言われた遊びがありました。例えば「春夏冬二升五合」。これは、秋がない→商い。二升→ますます。五合→半升で、つまり「商いますます繁盛」と読ませ、看板にもしたそうですが、なかなか洒落が効いていますね。今回はそんな江戸時代に思いを馳せながら、古地図を手に隠れた浅草南の歴史を探るウォークとなりました。駒形橋際の都営浅草駅に集合。橋西詰の駒形堂で今日一日の無事を祈り、ストレッチとコース説明後スタート。歩くほどに道が入り組み、如何にもここが下町であることを実感。日本で二番目に古い「佐竹商店街」を歩き、江戸時代のこの辺りの様子を皆さんに説明。小島公園でランチタイムも、花壇に腰かけての無粋な昼食となりました！昔は小山だった鳥越神社から、かつての花街「柳橋」へ。粋な三味線の音は空耳か・・・蔵前橋で川風に吹かれ、初場所で賑わうJR両国駅に到着です。この日は朝から抜けるような青空が広がり、冬にしては風も弱く穏やかな一日でした。

<フォトレポート 小島>



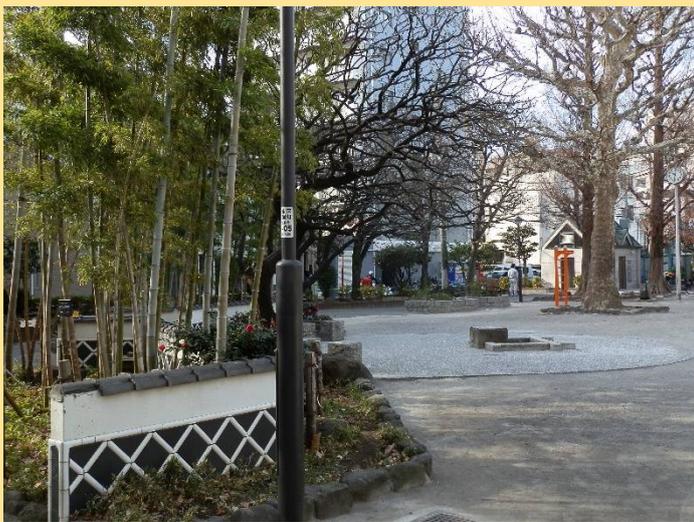
<雲一つない青空の下、なまこ壁とスカイツリーをバックに隅田川テラスで全員集合>



都営浅草線浅草駅で集合し、駒形橋西詰にある駒形堂広場で高橋文さんのストレッチと本日のコース説明。ここは観音像が漁師の網に掛かり大川から上がった場所で、浅草寺に祀られている観音様示現の地でもあります。



南浅草ウォークのスタート。外人観光客が目立つ東京メトロ田原町駅を抜け、まずは東本願寺を裏口から入り表門に抜けます！光端寺として神田に建立、京都東本願寺の別院となり、明暦の大火でここ浅草に移転して来たもの。また大政奉還時には、徳川慶喜を擁護するため結成された「彰義隊」の拠点にもなりました。



このエリアにはトイレ完備の公園が点在しています。関東大震災や大戦で焼野原になったことから、その復興と避難場所も兼ねての整備が進み、現在の姿になり憩いの場所になっています。この松葉公園は、ラジオ体操発祥の地でもあります。その他の公園にも体操台が備えられていて、毎朝ラジオ体操が行われているようです。

「浅草」のイメージとしては、浅草寺と雷門、仲見世や花屋敷に寄席等ですが、今回の南浅草界隈を歩いてみると、外国人観光客で溢れる浅草とは一味違った景色に触れることができます。



地下鉄稲荷町駅を過ぎると赤い大鳥居が目飛び込んできます。ここは下谷神社で奈良時代に創建された都内で最も古いお稲荷様です。この日は何故か黒服の男たちが目につき、一瞬そのスジかと緊張しましたが、単なる社員グループの参拝で一安心しました！



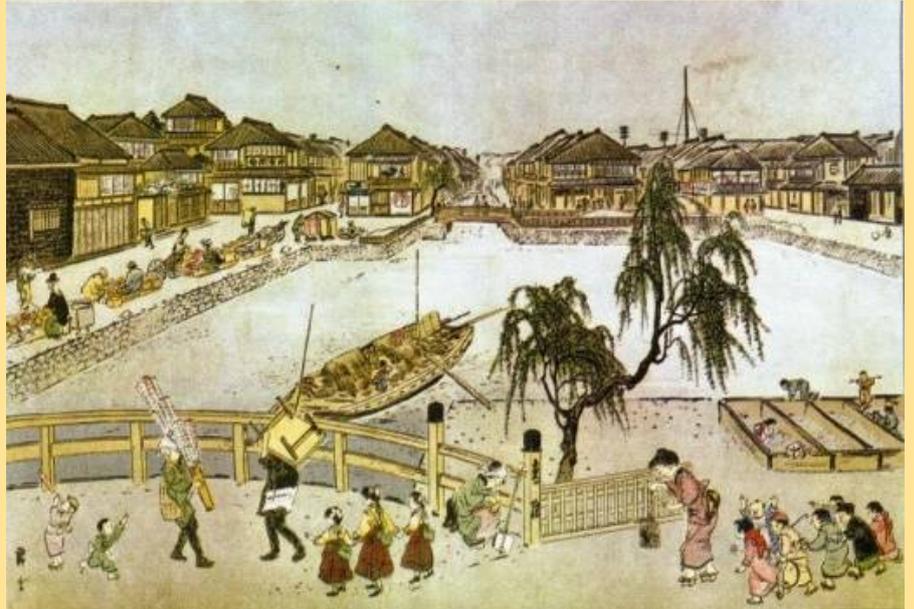
本殿手前には「寄席発祥之地」の碑がありました。これは知りませんでした！寄席と言えば浅草六区か上野広小路辺りかと思っていましたが・・・裏参道にはお稲荷さんらしく鳥居の列と赤い幟が林立しています。



下谷神社から南に下り日本で二番目に古い「佐竹商店街」に入ります。因みに一番古いのは金沢の「片町商店街」だそうですが、近代的な片町とシャッター商店街のこちらとは今では雲泥の差があります。この地は、廃藩置県後広い野原となっていたものを、民間に払い下げられて民家や店舗が建ち並び、商店街の萌芽が形成されました。その後、年を経るごとに歓楽街として発展し、寄席や見世物小屋が並び、料亭や活動写真館もでき、黄金時代を築きましたが大震災で被災焼失。震災後は元の店主達の努力で復興し、東京の三大商店街の一つに数えられました。

## <佐竹商店街周辺と秋田藩佐竹家>

ここ佐竹商店街一帯は、江戸時代に秋田藩佐竹家の上屋敷があった場所です。上屋敷は江戸での本宅のようなもので、家族や重臣たちの住まいでもあります。また大名屋敷には、この他に殿様の別荘ともいえる中屋敷や、時代劇で毎晩ならず者たちを集めバクチが開かれた下屋敷等もありました。ところで秋田といえば「秋田美人」ですね。佐竹家はもともと常陸の国（今の茨城周辺）に勢力を張っていた新羅三郎義光を祖とする常陸源氏の嫡流で、武田家に代表される甲斐源氏と同族でもあります。関ヶ原の合戦において、東西どちらにつくか家中で意見が纏まらず、中立的な立場をとったことで家康から睨まれ、東北の僻地秋田へ左遷させられたもの。当主の佐竹義宣は腹いせに、常陸の国から美人を全部連れて行ったといわれ、そのせいでその後に水戸に入った徳川頼房が「美人がない」と佐竹家に文句をいったところ、秋田にいた不美人を全部水戸に送りつけて来たという話が伝わっていますが、現代なら大変な問題になっていたところですね。因みにしだれ桜で知れる角館の武家屋敷群は、往時の佐竹北家の名残を今に伝える歴史遺産でもあります。



佐竹家上屋敷の配置図で赤い線が今の佐竹商店街にあたります。この絵は江戸時代の三味線堀。左側が佐竹家で今の佐竹商店街の場所です。上野不忍池から流れ出た忍川が三味線堀に流れ込み、この船溜まりからは鳥越川を下り大川（隅田川）に通じていました。なお、この堀は鳥越川を掘り広げて作られたもので、その形が三味線に似ていることからその名がついたといわれています。また当時は大川から荷船等が行き来して、活況を呈していた様子が伺い知れます。（これらの絵や写真は佐竹商店街HPより転載）



三味線堀越しに見る佐竹家上屋敷。写真か絵か不明ですが三階建ての高殿もある。



大正時代か戦前の写真なのか・・・右の写真の方が若干近代的な雰囲気です。



商店街のアーケードには「日本で二番目に古い」の文字も。商店街を出た横、三味線堀跡に建つ小島町アパート。



ランチは小島公園で。ベンチがないので花壇に座って食べることに。こちらは女性Gの“花壇端会議”か？  
食べ終わる頃には近くのサラリーマン達が喫煙に来ましたが、早めに食べておいて良かった！



今日は子供達の姿が見えません。シニア集団に怯えているのでしょうか？

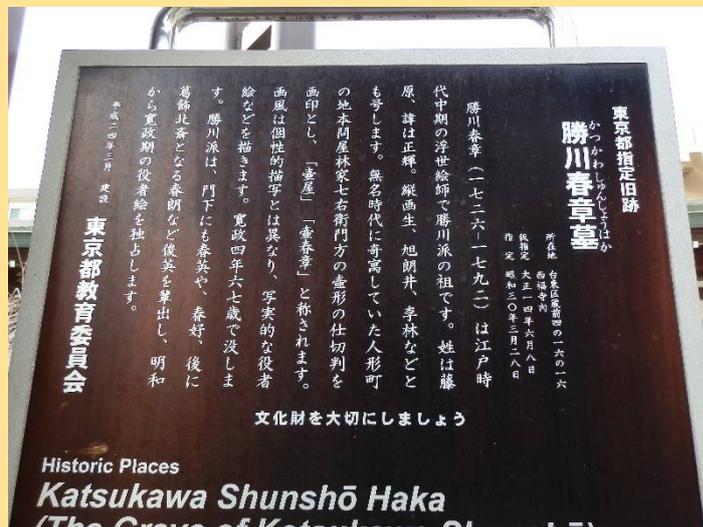
女性Gの傍で得したな～



デザートも食べ、心は次の鯛焼へ？



古地図にもある西福寺。地味な寺ですが・・・



元は徳川家発祥の地の三河にあった寺で、家康が関東に入国する際、現在地に移転したといわれる。松平西福寺とも称され、当時と比べるとその規模は小さくなっている。境内には浮世絵師の勝川春章の墓がある。



次は鳥越神社です。日本武尊を祀り白鳥神社と称したのに始まる。前九年の役征圧のため源頼義、義家父子がこの地を通った際、白い鳥が飛ぶのを見て浅瀬を知り大川（隅田川）を渡ることができた。それを白鳥明神の加護とたたえ、鳥越大明神の社号を奉った。後に江戸幕府が全国の天領から集める米を収蔵するため、大川に蔵（浅草御蔵）を造営することとし、この埋め立て用にこの鳥越山を切り崩すことになり土地を没収されてしまった。

(右上の写真は下見時に会ったどんど焼の場面)



浅草橋で本日のお楽しみの鯛焼き。KWCの大行列！

揃ってのもぐもぐタイム！ここでは皆さん甘党？

※東京の「三大鯛焼」とは、人形町の「柳屋」、四谷の「わかば」、そして麻布の「浪速屋総本店」といわれています。

この「鳴門鯛焼本舗」は関西系。そのせいか小ぶりですが他に比べやや高いが、素材の良さと甘さ控え目でお勧めです！



この通りやや小さめ。でも熱々は最高ですね！



あれ、いつから甘党に？ う～ん旨い・・・もう一枚！



袂には浅草見附跡が。当時なら食べ歩き禁止かもね。



浅草橋といえば船遊び。私もここから出たものです。



その名も粋な柳橋。神田川河口の橋です。



柳橋といえばこの老舗船宿の小松屋でしょう。



昔ながらの濃い味の佃煮もあります。



芸者は何処だ～？ もう居ませんよ！



かつての料亭街も今や情緒がないビル街に変貌。

### ＜花街だった柳橋＞

かつてはこの柳橋・芳町・新橋・赤坂・神楽坂・浅草を東京六花街と呼んだが、柳橋花柳界が消滅した後は向島を加え六花街と呼ばれるようになった。江戸中期、幕府による取締りで深川から一部の芸妓が移住し、隅田川沿いに構えたのが柳橋花街の始まりとされる。やがて地元で最良にされ、新橋と並び「柳新二橋」と称され戦前まで隆盛を極めた。戦後まもなく復興したが、東京オリンピック前後から銀座・赤坂・六本木等に客が流れ衰退していった。今は名残の亀清楼がビルに入っている。

### ＜芸者歌手誕生＞

戦前、芸者歌手というジャンルがあった。小唄勝太郎(島の娘・明日はお立か)、市丸(天龍下れば・三味線ブグウギ)をはじめ、美ち奴(ああそれなのに)、赤坂小梅、新橋喜代三、日本橋きみ栄、豆千代に神楽坂浮子、神楽坂はん子等も売れっ子だった。中でも小唄勝太郎のライバルだった市丸は、美貌と身に着けた芸でテレビや映画でも活躍し、美人画のモデルにもなりその人気を極めた。また市丸と勝太郎は犬猿の仲で、同じ舞台上がることはなかったが、赤坂小梅の仲介で仲直りをしたという。後年は歌手業に専念するため芸者を廃業、柳橋に自宅を建て浅草を離れた。知られた話だが、内閣総理大臣近衛文麿の愛人だった。個人的には市丸姐さんのファンで、その艶やかな姿に釘づけとなったものです。(写真は柳橋MPより)



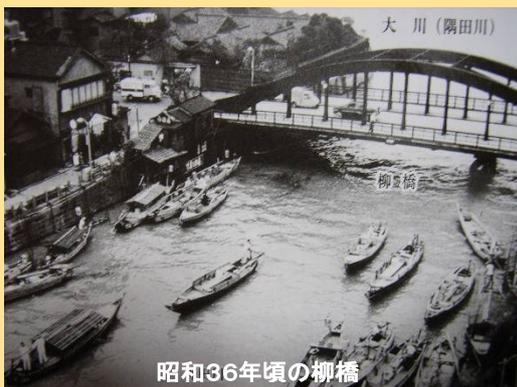
その中心でもあった石塚稲荷神社。芸妓組合の文字も。



売れっ子だった市丸。



柳橋の自宅跡。現在はルーサイトギャラリーに。



昭和36年頃の柳橋



最盛期の柳橋芸者衆



隅田川テラスに出ました。左のなまこ壁は三河岡崎藩本多家の屋敷があった場所。雰囲気をよく残しています。



テラス沿いには安藤広重の江戸を描いた風景画がずらりと並んでいます。



※関が原後の慶長八年（1603年）、「天下普請（てんかぶしん）」に乗り出した征夷大將軍・徳川家康は、江戸を大いに発展させるためには、港湾都市の形態が最良で、そのために神田台を切り崩し、その土で日本橋浜町辺りから新橋付近まで現在の中央区一帯の市街地を造成、「下町」をつくり出した。「御手伝普請」として、大変な土木工事に借り出された大名の家紋が、隅田川テラスの壁に、ご苦労様でしたと点々と飾ってある！（代表して三紋だけ掲載）



その先に何故か橋が。ここは旧鳥越川の河口でした。



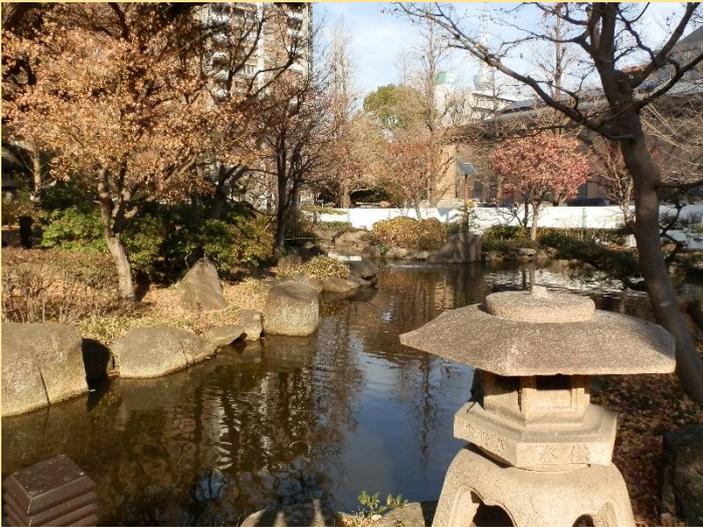
蔵前橋の西詰めにある「首尾の松」。松は何代目？



ここで暫し休憩タイム。そろそろ皆さんお疲れか。



浅草御蔵跡の碑。お米を食べると太るのよね～。



横網町公園に到着です。冬枯れの日本庭園。



暫し園内にある復興記念館内を見学します。(無料)



見学後ここで高橋文さんのクールダウン。



初場所で賑わう国技館を過ぎ両国駅へ。

<今日の一言>

私事ではありますが、以前から池波正太郎や佐伯泰英の時代小説ファンで、話に出てくる江戸下町の地名・橋・名所等の歴史に興味があり、これを皆さんと共に古地図で辿って見ようと思い、手元の各種資料を参考に、若干個人的な思い入れも加えて今回のルートとなりました。ただ時間の関係もあって、話せば長い内容もかなり省略せざるをえず、皆さんに何処まで伝わったか心残りもあります。当初、今回の江戸まち散歩の参加者は、せいぜい15人くらいかと考えていましたが、その想定を大幅に超える27人の“大集団”となりました。しかしSLをはじめ、各班長さん方のサポートを頂き無事ゴールすることができました。このウォークを機に、当時世界一の人口を誇った江戸の歴史に、興味を持って頂ける方が増えれば幸いです。

なおアフターには18名の参加があり、久々に大勢で盛り上がりました！ 皆さん大変お疲れ様でした。